



高山西ロータリークラブ

No. 2342 例会 平成 26 年 3 月 7 日

青少年育成委員会

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 山下 明
- 幹事 寺田 昌平
- 会報委員長 堀川 和士



垣内 秀文

<会長の時間>

雛人形の飾り方

一京風(古式)と関東風(現在式)について

・現在、市内各所で雛まつりが飾ってあります。男雛(お内裏、天皇)と女雛(お雛様、皇后)の位置が、京都や西日本では男雛は左(向かって右)、関東を含め多くの地域では男雛は右(向かって左)と逆の配置になっています。高山では、花兆庵は古式にのっとり左に統一してありますが、ほとんどが割にバラバラであります。



・古来からの飾り方は男雛は左、女雛は右なのです。上段の左に天皇、四段目に年配者の左大臣、五段目に左近の桜。上段の右に皇后、四段目に若者の右大臣、五段目に右近の橘が対で飾り、左の方が格上という考え方で配置されています。

◎古来より神道では、左の方が格上であった。

・神社参拝時、拍手の作法として、右手を少しずらして拍手するのが正式とされています。これは左は火足(ひたり)であり、陽であり、霊(ひ)なのです。右は水極(みぎり)であり、陰であり身(体)なのです。両手を合わせるのは陰陽の結合と調和であり、右手を少し手前に引くのは、陰が一步下がるということで、左(火、霊)が優位、右(水、身)が従ということを表わしています。

・天皇(中国では皇帝)は南に向いて座ります。座って左側(東)から太陽が昇り、右側(西)から太陽が沈むということから、左が右より上位という説もあります。・日本神話の中でも、イザナギとイザナミがさまざまな神生みをする時にイザナギが天の御柱を左に回り、イザナミは右に回ったとか、イザナギが裸で目を洗った際に、左眼からアマテラス、右眼からツクヨミ、鼻からサノオが生まれたとのことから、左を格上にしてあります。

・上の前歯の中央左側の歯を大黒歯といい、右側の歯を恵比寿歯といいまして、大黒様の方が格上で左側なのです。

◎仏教を含め、他の宗教は右手の方が聖なる手としている。

・仏教では右手は仏の象徴で、左手は不浄さを持っている衆生という自分自身であり、合掌することで仏と一体になるとのこと。大日如来の忍辱ポーズとも言われている智拳印では、左手(不浄、煩惱、衆生)の指を右手(仏)が包みこんでいます。

・キリスト教やイスラム教、ヒンズー教でも右手は聖なる手、左手は不浄の手という考え方が今でも残っていて、多くの国々は右優位となっている様です。

◎男雛を右(向かって左)に配置する現代式が現在は主流(約70%)となっています。

・日本人形協会によると、明治の文明開化によって日本も西洋化し、大正天皇の即位式の時、西洋式に習い、右に立たれ、その後昭和天皇はいつも右に立たれるようになってから、男雛を右(向かって左)に置くのを現代式、左に置くのを古式と定めたとのこ

とです。

・男雛一左大臣一左近の桜と女雛一右大臣一右近の橘と対となる基本形があるにもかかわらず、時代の流れとして男雛と女雛だけを置き換えて良しとする、この日本人融通無碍な処理方法にびっくりします。雛飾りのことをいろいろ調べたり見たりしていますと、一貫性を追求するというより、いろいろ丸く治めて処理する日本人のメンタリティーというか知恵に驚いている次第です。

<幹事報告>

◎ガバナー・ガバナーエレクトより

・国際ロータリー第2630地区
2014年地区協議会開催のご通知
日時 4月13日(日)



登録受付・昼食10:30 開演12:00 終了17:00

会場 多治見市文化会館 等

出席義務者 会長以下、次期幹事、次期会計、次期ロータリー情報委員長、次期雑誌広報委員長、次期会員増強委員長、次期職業奉仕委員長、次期社会奉仕委員長、次期環境保全委員長、次期国際奉仕委員長、次期インターアクト委員長、次期青少年育成委員長、次期ロータリー財団委員長、次期米山奨学委員長、(H25.1.1以降入会者、これまで地区協議会参加経験のない)新会員

◎高山市ソフトミニバレーボール選手会、高山市体育指導委員会より

・第61回高山西ロータリークラブ杯争奪
高山市ソフトミニバレーボール大会の共催について

日時 3月9日(日) 午前9時より

会場 飛騨高山ビックアリーナ

<例会変更>

加茂東 … 3月13日(木)は、職場訪問例会のため
14:00~(株)山喜建設に変更
5月1日(木)は、定款により休会

<受贈誌>

2520地区ガバナー・山田RC(やまだの作文第42集)、一般財団法人比国育英会バギオ基金(バギオだより41)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	35名	15名	50名	50名	100.00%
本日	40名	—	40名	50名	80.00%

ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

例会報告

<本日のプログラム>

◎会員誕生日

堀川 和士
3. 12

◎夫人誕生日

小林 勝一 高子 さん
3. 4
西村 直樹 裕紀子 さん
3. 11

◎結婚記念日

野戸 守 S36. 3. 15
小林 勝一 S43. 3. 30
阪下 六代 S49. 3. 9
山下 明 S50. 3. 23

◎出席表彰



寺田 昌平

9年



大村 貴之 2年



塚本 直人 2年

◎在籍周年記念表彰

堺 和信
10年



◎3ヶ月表彰

・井上 正 ・大村 貴之 ・小林 勝一 ・塚本 直人
・寺田 昌平 ・鍋島 勝雄 ・野戸 守 ・平 義孝
・堀川 和士 ・洞口 良一

青少年育成委員会

委員長 伊藤 松寿

本日は青少年育成委員会事業として23年目となります、義務教育9カ年皆出席表彰を行います。合併以前は該当生徒さんにお越しいただき直接表彰をしていましたが、合併後からは各学校に於いて終業式の場などで表彰していただいています。本年度は36名の生徒さんが皆出席を達成されました。ここでお名前を読み上げます。敬称は省略とさせていただきます。



お祝い



日枝中学校 8名 : 池之俣 遥奈、大岩 梓紗、押井 悠伽、森腰 友芽、山下 絵美菜、吉田 明織、後藤 佳樹、藤田 祐貴

松倉中学校 7名 : 尾方 秀真、小林 元輝、角島 拓也、長倉 恭子、堀 未来、坂澤 翔哉、島田 旺奈

中山中学校 4名 : 鍵谷 希、下田 直和、浪貝 里香、高木 響生

東山中学校 9名 : 東 志夢、山越 大史、横山 完貴、谷口 孝輝、桂川 紗也加、中西 あずさ、中條 若菜、岩本 奈々、上葛 瑞歩

丹生川中学校 3名 : 阪上 源、手綱 健留、今井 譲

清見中学校 2名 : 新家 浩志、熊崎 奈央

久々野中学校 1名 : 中島 峻貴

北稜中学校 2名 : 松田 大河、亀谷 真世

以上です。

本日は代表生徒さんのみ校長会の中学代表、朝日中の長瀬校長先生に代理授与させていただきました。

なお、残りの生徒さんにつきましては、幹事・私の2名にて、昨日6日(木)に宮の教育研究所で行われた高山市校長会に出向きまして、お渡しして参りました。

では、長瀬先生、よろしくお願いいたします。



高山市中学校長会 代表 朝日中学校長 長瀬 真人 先生

皆さんこんにちは。只今ご紹介を賜りました高山市中学校長会会長の長瀬です。まずもって、高山西ロータリークラブの皆さまにお礼を申し上げます。皆勤生徒に対して、30年もの長きにわたりお心遣いをいただいていることに心より感謝申し上げます。昨日は、伊藤様におかれましては、校長会の席にわざわざ足を運んでくださり、36名の9年間皆勤生徒への表彰状と記念品を賜りました。ありがとうございました。また、ロータリークラブの活動を通して青少年の健全育成に多大なる貢献をなさっていることにあわせて感謝申し上げます。

さて、それでは、ご依頼を受けました「9年間皆勤生徒へのお祝いのお話」をさせていただきます。

今年度は、高山市で36名の生徒が9年間皆勤をしています。9カ年を皆勤するという事は、現在の高山市においては、一つの特別な意味をもっています。それは、不登校生徒が大変多くなっているという事実があるからです。要因は多様です。はじめが起因するもの、学習が起因するもの、また、心の要因に

例会報告

よるものなど様々です。その中で、来年度、高山市の教育の重点としているのが「確かな学力の定着」と「よりよい生活や人間関係を築く力を育成する」ということです。人と関わるということは、支えられたり励まされたりして、仲間や周りの人との絆を感じずることもあります。逆に厳しい対応や心ない言葉や態度にさみしい思いになることもあります。目の前に置かれる大小様々なハードルを越える体験をしながら、一人の人間として成長していくわけです。ハードルを飛び越えるエネルギーが足りないときもあるでしょう。そんなときに支えてくれるのが、親や家族、仲間や先生など、自分に関わる多くの人からです。関わる人たちの姿や考え方によっては、支えるエネルギーを与えることができないこともあります。そこで、高山市では、親や教師だけでなく、子どもたちに関わる全ての大人が、子どもたちの目標であったり、あこがれであったりする、そんな生き方をしていこうという提案がされ、そのための地域教育参画会議が、平成24年度に12中学校区全てに立ち上がったことはご存じの通りです。私の勤務する朝日中学校区では、組織作りが平成23年度にスタートし、他の地区に先駆けて「朝高子どもしとねる会」という名称で活動をしています。青少年の健全育成という観点から見ると、皆様方ロータリークラブ様と願いを一にしています。今後も、連携を推し進めていけたらと思っています。

さて、子どもたちの周りの大人が、大人としての責任と自覚を高め、子どもたちのあこがれとなれるよう頑張ることと同時に子どもたちに投げかけなくてはならない大切なことがあります。学校の職員は、いろいろな語りでそれを生徒に届けていますが、その一例の話をさせていただきます。

◇まず、自分は奇跡の人であり、誰一人として臨まれない存在の人はいないということです。

これは、以前に私が一緒に勤務した先生に教えてもらったことです。宇宙理論を研究したホーキング博士という人の考えでは、この宇宙に地球のような知的生命体が存在する惑星が誕生する確率は、10億の13乗分の1の確率だそうです。さらに、お母さんが作り出す卵子の中で、その子になった卵子は400分の1。そして、お父さんの精子の中からその卵子と出会う精子は、さらに3億分の1だそうです。また精子が卵子に出会うまでの道のりと困難さをマラソンに例えると、東京からハワイまでの約6,700kmマラソンになるそうです。普通の42kmのマラソンを連続で160回走り続けるのです。3億人が一斉にスタートする訳ですが、例え3億人が参加したとしても無事ゴールできる者がいるとは限りません。選ばれた精子のみが卵子と出会い、一人の子どもが誕生するのです。十月十日、今現在までの生活、まさに一人一人の子どもは奇跡の人であり、選ばれて存在している訳です。選ばれた自分ということは分かって、人は弱者で、姿形などの見かけの違いや、勉強や運動ができるとかできないとか、そういったことが気になり悩まされることがあります。特に10代後半の思春期には避けられないことともいえます。しかし、一生に出会う人の数は、一人の人間が誕生する奇跡の確率と比べれば小さなことです。必要の無い人は誰一人としていない。自分自身を大切にすることはもちろん、家族や仲間など周りの全ての人たちの命の重みを感じ取らせたいものです。

◇次に、選ばれた命だからこそ、我慢強さを身につけ、くじけない強さをもとう、という話をします。

夢をもつことが大切であることはよく話します。また、その夢を実現させる道のりが険しいこともよく話します。しかし、いろいろなことにチャレンジしていると、くじけそうになることはいっぱいあるのが現実です。しかし、そのたびにどれだけがんばれるかが試され、くじけない強さが育っていくことを教えます。大きな困難を乗り越える強さは、小さな我慢の連続で育つということです。

ある一人の生徒の話をして。2年の1学期。中間テストの朝、彼は教室で、二つに裂けた教科書をベソをかきながら見ていました。理由を聞くと「昨夜、勉強をしていたらお父さんが酔っ払って帰ってきて『俺の子が勉強してもしょうがない。電灯が邪魔で寝られない。』といきなり英語の教科書を破いた。」というのです。その生徒の家はご両親と兄弟3人が、六畳一間のアパート暮らしで、生活も苦しく、お父さんは普段は優しいのですが、酒が入ると人が変わってしまったそうです。2年の終わり頃、その生徒は担任の先生に「俺、勉強あまりできないけど、将来学校の先生になりたい。なれるかなあ。」と相談をしました。その先生は、成績からみてどうかなあと思いつつも「頑張るって、やれるだけやってみよう。」と言いました。3年の2学期、その先生が夜遅くまで学校で仕事をしていると、近くの駅の駅長さんから電話がありました。「先生の学校にこういう生徒はいますか？毎晩駅に来て、駅の電気が消えるまでベンチで勉強をしているのです。別に迷惑でも何でもないので、お知らせだけしておきます。」という内容でした。その先生は、彼が家で勉強できない理由を話し、ご迷惑がかかるようでしたら連絡して下さいとお願いしました。3学期に入り、面談のとき「駅で勉強しているそうだけど、寒いからカゼをひくなよ。」と話す。「あれ、先生知ってたんですか。今は駅員さんが、寒いからと言って事務室のストーブのそばの机を一つ貸してくれて、温かい所で勉強してるんです。」と答えました。合格発表の日、彼は「先生、駅の人たちにも知らせに行きたい。」と言い、先生と一緒に駅へお礼に伺ったそうです。駅では、駅長さんはじめ駅の人たちがみんな自分のように喜んで、彼にお祝いまでくださったそうです。その後、彼は高校でもさらに努力し、夜間の大学に進み、希望通り中学の先生になりました。

もう一人、声が出なくなった父の話をして。私の父は40年間、書道を教えてきました。書道教室を始めて、丁度20年たった頃、のどの病気になり、声帯という声を出す部分を手術でとることになりました。そこから、声のでない生活することとなったのです。皆さん、声が出ない生活を想像してみてください。コミュニケーションをとる方法を変えなくてはなりません。食べ物や口から胃まで通る食道を使って声を出す方法があります。しかしこの方法では、大きな声が出ないため、機械をのどに押し当て音を大きくしなければなりません。食道を使って声を出せるようになるには、かなりの訓練が必要です。父も、何度も何度も練習していました。でも、この方法で大きくされた声は、機械によって作られた声のため、ロボットが話しているような声です。その人がそれまで話していた声とは全く違う声です。父はもう一つの方法として、筆談といって自分の気持ちや伝えたいことを紙に書いて伝えていました。この方法でも、気持ちが伝わらずイライラすることの連続だったと思いま

例会報告

す。しかし父は、その後も書道教室を続けました。静かな書道教室の始まりでした。私も、たまに書道教室を手伝うことがあったのですが、逆にこれまでよりも集中して生徒たちは習字の練習をしていたような気がしました。細かな指示が出ない分、生徒たちは、次にやることを覚えて自主的に練習していました。父は、無い物ねだりをしてもしようがないという気持ちで、言葉でなく、身振り手振りや表情で子供の主体性を引き出し、そして書く力で指導を続けました。声を無くしてから、その後20年間指導を続けました。我慢と工夫、努力の連続でした。投げ出すことは簡単です。投げ出さない強さ、そこに自分らしさが生まれるんだと、父の姿を見て感じました。父の生き方は、今の私の生き方にも大切なことを教えてくれたと思っています。それは「無い物ねだりではなく、ある物や使える物を十分生かす、我慢の生き方のすばらしさ」でした。

◇最後に、選ばれた命の重みはみんな一緒、輝き方は命の数だけあるという話をします。

私は大学生の時、ユネスコというサークル活動で福井市にある無認可の養護施設を訪問する機会がありました。その施設では、認可された養護施設では受け入れてもらえない重い障がいがある子ども達が20名程生活していました。子どもと言っても年齢は20歳くらいの人達もいました。そこを活動場所にしている福井の同じサークルの仲間の大学生が私を出迎えてくれ、訪問体験がスタートしました。施設内には子ども達と学生の笑顔、そして笑い声があふれていました。しかし同時に排便が思うようにできず、体も自由に動かすことができない子ども達と建物からは、鼻をさすようなきついにおいが立ちこめていました。また、お昼ご飯の時間であったため、床にはたくさんの食べ物が落ちていました。そんな中、恥ずかしいことに大学生だった私は「どうぞ一緒に。」と出された食事を、作り笑顔で飲み込むのがやっとでした。しかし、私を出迎えてくれた後輩の学生達は、子ども達の食事介護をしながら、自然な笑顔でおいしそうに食事をしていました。自分が情けなくなりました。そんな私に学生達は「先輩、この子達は、スプーンを口に運べるようになるまでに10年かかる子もいるそうです。そんな小さな一歩でも、できるようになることを信じて毎日がんばっているんですよ。すごいと思いませんか。私なんか、思うようにならないことがあるとすぐにあきらめてしまうけど、この子ども達の心はすごく強いんです。」と話してくれました。目標を持ち、あきらめず努力することの大切さを言葉ではなく、体験で学ぶことができたのと同時に、命の価値や輝きは、障がいがあるなしにかかわらず、誰もが同じであることを心の底で感じることができました。

一人一人の子どもたちは、生まれも育ちもそれぞれです。理解の仕方や納得の仕方それぞれです。一人一人の生徒が輝くだけでなく、その子の輝きが周りの人からの輝きに貢献できる、そんな生き方を願います。一人一人の心に届く関わりを日々考えながら、そして、私たち自身が大人としての責任を強く自覚して指導に当たります。皆さまのますますのご支援をお願いして、私の話を終わります。

<ニコニコボックス>

●山下 明さん

朝日中学校長 長瀬 真人 先生、ご多忙の中 義務教育9カ年皆出席表彰にご臨席賜りありがとうございます。ご講話よろしくお祈りいたします。

●寺田 昌平さん

・本日のプログラムは青少年育成委員会です。義務教育9カ年皆出席表彰を中学校代表 朝日中学校長 長瀬 真人 先生に代理授与のためご来訪いただき御礼申し上げます。

・先日2/28 都合悪く副幹事 門前さんに幹事役を務めていただきありがとうございます。

●青少年育成委員会 伊藤 松寿さん、狹土 貞吉さん、小田 博司さん

高山市小中学校校長会 朝日中学校 長瀬 真人校長先生、本日はようこそ例会にご出席いただきました。心より歓迎いたします。後ほどスピーチよろしくお祈り致します。

●小林 勝一さん

妻の誕生日にきれいな花をありがとうございました。

●垂井 政機さん

長い間お休みさせていただきまして申し訳ありませんでした。全国の駅弁大会も前半戦を終え一息つきました。後もう少しです。

●会長エレクト 田中 武さん、副幹事 門前 庄次郎さん

本日、来年度の「理事・役員並びに委員会名簿」を配らせていただきました。この陣容でやって行きたいと思っています。宜しくお祈りいたします。また、地区協議会の出欠締め切りが早めという事で、同時に関係者の皆様に案内を配らせていただきました。出席場義務の皆様には、是非参加頂きますようお願いいたします。

●垣内 秀文さん

先日、会員皆様のお宅に許可なく展示会のDMを郵送させて頂きました事をお許し下さい。西クラブに入会させて頂いて6年間、沈黙を守ってまいりましたが今回だけは目に見てやって下さい。重ねがさねお祈り申し上げます。当日は粗品ではございますが来場記念品をたくさん準備してマウントエースにてお待ちしております。当日は混雑する時間も多少有りますが、出来る限りの『お・も・て・な・し』をさせていただきます。本日は午後より会場準備の為欠席させていただきます。

●折茂 謙一さん

早退します。

●田中 正躬さん

いよいよあさって日曜日には高山西ロータリー杯争奪ソフトミニバレー大会を迎えます。当クラブからも井上さんを監督に新井さん、大村さん、下屋さん、塚本さん、中島さんの方々に頑張ってください。お時間のある方は是非応援をよろしくお祈りいたします。